

## 学習内容報告書 フォーマット

学校名	鳥羽市立答志中学校
授業者	酒徳なぎさ、大上瑞貴、野村貴裕

### 1. 単元計画

実施した活動内容に基づきご記入ください。

#### 1-1. 単元名

藻場再生事業体験学習

#### 1-2. 学年

第3学年

#### 1-3. 教科（単元を実施する教科を全てお書きください）

総合的な学習の時間

#### 1-4. 単元の概要

答志漁協青壮年部や鳥羽市水産研究所などが取り組んでいる藻場再生事業に参加する。海の環境や生態系を支える藻場の役割について学ぶとともに、答志島周辺の海にアラメを放流する体験に取り組む。また、プロジェクトに関わる人々の思いや考えを聞き、その仕事を間近に見ることで、ふるさとの環境や産業に対する自身の今後の取り組みや姿勢について考える機会をつくる。

#### 1-5. 単元設定の理由・ねらい

本校は鳥羽市の離島・答志島にある。生徒の保護者には主に水産業や観光業などに従事する方が多く、生徒は普段から身近な海と深く関わって生活を送っている。卒業後の進路でも、漁師等海に関わる職業に就く生徒が多い。これらの状況をふまえ、本校では地域の産業や地域で働く人々と触れあうことで、地域の特性や良さを知り、自らの将来や生き方について考える糧になるのではないかと考え、学年ごとにテーマを決めて、1年間を通して、総合的な学習の時間の中に位置づけ、取り組みを続けている。

3年生では、藻場再生事業体験学習に取り組む。近年、伊勢志摩地域の漁場では磯焼けが進行している。答志島周辺でも昔に比べて藻場が減少してしまい、魚介類が取れなくなりはじめた。その危機を救うため、答志漁協青壮年部や鳥羽市水産研究所等の機関が連携し、藻場再生活動に取り組んでいる。数年前から本校3年生がこのプロジェクトに参加し、藻場の役割や海の生態系について学ぶとともに、答志島近海にアラメを放流する体験学習を、答志漁協青壮年部や鳥羽市水産研究所などの協力を得て取り組んでいる。地元の海の環境や生態系のようなそれらと自らの生活についてのつながりについて考えること、地元の人々のプロジェクトにかける思いや仕事に対する誇りを感じながら、改めてふるさとの海の良さを感じ、誇りに思う心情を養うことを目指し、本単元を設定した。

1-6. 育みたい資質や能力、態度

地域の海に関わる様々な人との出会いや体験の中で、感謝や思いやりの温かい心を持ち、ふるさと・答志を知っていく中で、地域の海に関わる産業、伝統、文化を継承、発展させていく心情を養う。

1-7. 単元の展開（全 2 時間）

時数	学習活動・主な内容	教師の指導 / 主な評価 外部連携 / 使用教材等
1	<p>藻場の役割や活動の目的について、鳥羽市水産研究所・岩尾豊紀さんの話を聴く。</p> 	<p>&lt;教師の指導&gt; 外部講師との打ち合わせ、動画の作成 &lt;外部連携&gt;鳥羽市水産研究所 &lt;使用教材&gt;P C、モニター</p>
2	<p>岩にアラメを固定し、海に放流する体験を行う。</p> 	<p>&lt;教師の指導&gt; 作業場所への引率、体験の補助、ワークシートの作成、外部講師との打ち合わせ &lt;主な評価&gt; ・体験活動に積極的に取り組んでいるか。 ・ワークシートに体験した内容をまとめられているか。 &lt;外部連携&gt;答志漁協青壮年部、鳥羽市水産研究所 &lt;使用教材&gt;ワークシート</p>

## 2. 学習活動の実際

実施した単元中のキーとなるような時間（導入の時間・主となる活動の時間・まとめの時間など）の学習内容をご記入ください。また、複数の時間についてご記入いただける場合には、この項目をコピーして複数記入していただいても構いません。

### 2-1. 単元における位置づけ

単元  時間中の  時間目

※例：単元 10 時間中の 2 時間目 / 単元 15 時間中の 4, 5 時間目

### 2-2. 本時の目標

- ・アラメの藻場体験学習を通して自分たちの住む郷土の漁場や海の環境の実態を知る。
- ・地場産業への認識を深めるとともに、勤労の尊さ、仲間との協力、自然との関わりの大切さを学び、郷土と海を愛する心を育てる。
- ・海の生態系や藻場の役割などに関わる学習や体験を通して、身のまわりの多様な自然に気づき、その実態から自分の行動を考える姿勢をもつ。

### 2-3. 本時の展開

主な学習活動 / 反応	教師の指導・支援 / 評価の視点（方法）
14:00 ・作業場所へ集合。 ・岩にモルタル付けした針金に、アラメを固定する。	・作業しやすく、ぬれてもよい服装で行う。また、ゴム手袋と長靴の着用を確認する。 ・答志漁協青壮年部の方々や鳥羽市水産研究所の岩尾豊紀さんから説明を聴き、作業を体験させる。準備していただいたペンチなどを使い、けがのないよう留意しながら行うよう巡視する。 ・作業のようすを写真などで記録する。
14:30 ・船に岩を積み込み、沖へ出る。 ・所定の場所へアラメのついた岩を海に沈める。	・4～5人ずつにわけて乗船させる。ライフジャケットを配布し、着用を確認する。 ・沈める際に、アラメが上向きになるよう、できる限り静かに沈めるよう指示する。（青壮年部の方々がダイバーとして海底での岩の重なりなどを修正してくれる。） ・青壮年部に準備していただいた箱メガネを用いて、海底のようすを観察させる。 ・作業のようすを写真などで記録する。
15:00 ごろ ・作業場へ戻り、解散する。 （後日、作業内容のまとめや感想を記入し、教師へ提出する。）	・代表生徒にお礼を述べさせる。

### 3. 今回の活動の自己評価

- ・1時間目の学習では、鳥羽市水産研究所の岩尾豊紀さんに、藻場の役割や藻場を再生するための取り組みなどについてお話しいただいた。生徒は興味深いようすで聴いており、次時の体験学習の目的や取り組み内容について、より理解できたようであった。また説明の中に「藻場は守りたい自然の一部。この体験学習から、藻場以外にも様々な自然があることを知ったり、身の回りの自然の変化を見たりしてほしい。」という言葉があり、本学習で学んだことをこれから出会うさまざまな形の自然と向き合うときに活かして欲しい。
- ・2時間目の体験学習では、前時の説明をしっかりと意識して活動に取り組むことができているようであった。アラメの固定、船への運搬、海への放流と体力的に負担のかかる作業が続いたが、生徒は積極的に作業に取り組み、たいへんスムーズに体験を進めることができた。海中への放流の際には、アラメが傾いたりしないように考えながら、ゆっくり海へ投入することができた。体験後の感想には、「これからの答志の海の環境を守っていくことを、より一層考えることができた。」「この藻場が成長しているいろんな貝とか魚が増えたらいいなと思います。」など、地元の海を支える藻場の大切さを実感できた生徒が多かった。

### 4. 今後の課題

- ・学習内容の環流やまとめなどができなかった。今後、外部に発信できる手立てを考えていく必要がある。
- ・これまでアラメを放流した場所の経過観察がなかなかできていない（毎年放流場所を変えている）。1年間の生育状況や、これまで先輩たちが放流した場所の観察など、この事業の成果や課題を知る手立てを考えていきたい。

### 5. 本学習内容報告書活用にあたっての留意点

<協力> 答志漁協青壮年部、鳥羽市水産研究所

※実施した单元ごとに作成してください。

※写真、画像、図表等の使用可。必要に応じて記入欄やページ数を増やしても構いません。

※基本レイアウト

フォント：MS明朝、10.5ポイント / マージン：上下端 20mm、左右端 16mm

※ファイル名は「学習内容報告書\_学校名」とし、複数提出する場合は学校名の後に数字を記載してください。

例：学習内容報告書\_海洋市立パイオニア小学校 1

※年間指導計画（年間の指導計画における単元の位置づけが分かる資料）があれば別添資料として提出してください。フォーマットの指定はありません。